

## 電気自動車を巡る動き

劉 瑛

電気自動車が話題になりつつありますが、大連、中国東北地域は、上海などに比べるとまだ関心は薄く、身近で電気自動車への買い替えなどが話題に上ることはまだありません。8月16日大連自動車展示会が開催されましたが、やはり電気自動車の盛り上がりは感じられません。日産と大連にあるニューソフト社が今後電気自動車電池制御部分の協同開発をするというニュースも地元の新聞にはなく、ウェブサイトの日経新聞からの引用として紹介されています。

### <関連業界の動きなど>

未だ大連で電気自動車への関心が高まらないのは、走行距離がまだ短く、頻繁に充電しなければならない手間が不便で、大連人の性格に合わないといったことに加え、実際充電しようにも充電スタンドの設置があまりにも少なく、街中では極めて困難であることが挙げられます。

しかしながら、電気自動車時代の到来が叫ばれる中、関連業界では様々な対策がとられています。自動車メーカー各社はもちろん将来に向けた電気自動車関連の技術開発に遅れを取ってはならず、市内のガソリンスタンドからは将来に対する不安が聞こえる中、国営企業のカソリンスタンド「中国石油」は全国的に電気自動車への対応を始めており、いずれ大連でも充電スタンドが増えていくと考えられます。

なお、電気以外にも、今年2月に大連の旅順で、ドイツのe.m.t GmbH社と技術提携した水素エネルギー・水素電池プロジェクトの発表も行われています。こちらは具体的な内容は発表されていないことから、その将来性を見越し、まずはプロジェクトの立ち上げを行った感もあります。

### <電気自動車の普及>

ここ中国では同じ地域の方が携帯で近くにいる自家用車（マイカー）を予約して乗合利用できる「滴滴（ヴィヴィという携帯のメッセージ音が起源）」サービスが全国的に広がり、タクシーのマーケットを奪い、また、ハイヤー・車リースの市場にも影響を与えました。これに対抗して、有力ハイヤー・車リース会社の「神州リース社」では「神州専用車」システムを構築し配車サービスを開始しました。料金は「滴滴」の倍以上ですが、車種、運転者、運転技能、そのほか安全の保証が全くないマイカーと違い、企業と利用者のBtoCですから、特に女性や子ども達にとっては安心して利用できます。また、大切なお客様をお迎えする場合も、運転手の礼儀正しい対応が可能な「専用車」を予約して送迎するほうが万全で、また、運転手を雇用して自社の車で送迎するより効率も良いです。

大連においては、「神州専用車」と同様サービスである「曹操専用車」が突然の参入を果たし、積極的なPRを行い事業展開しています。料金は先に進出した「神州専用車」よりは安く、タクシーよりはやや高いですが、電気自動車も手掛ける「吉利自動車」が運営しており、使用される車は全部電気自動車の新車です。自動車メーカーの運営ということで車体の安心感もあり、運転手もタクシー運転手よりよほど礼儀正しいですが、「神州専用車」と比べ資金力はやや劣り、参入も遅れをとったこと等が影響し、今のところ、大連・瀋陽など2級都市での展開がメインとなっています。

なお、運営元の「吉利自動車」にとっては、電気自動車の開発に合わせて普及に力を入れていかなければなりません。現段階では、充電インフラが不十分なことから、まだ一般ユーザーへの浸透が低い状況です。そのような状況の中、電気自動車による「専用車」のサービスは、電気自動車のPR、普及につながる戦略ともなっています。

### <消費者目線では>

この「曹操専用車」の参入で、いつも頭が痛い「瀋陽駅でのタクシー拾い」も携帯と指1本で簡単に解決するようになりました。

「曹操専用車」は、今後北京・上海などにもサービスを拡大すると発表していますが、われわれ消費者としては、多くの企業が参入し、選択肢が増え更に便利になると、「専用車」があれば、自家用車は不要で手放してもよいのではといった声も聞かれはじめました。